アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身の kiku さんが綴るふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　終わりははじまり

2月16日、51回目の深浦剣道大会が開催された。これで最後になると聞いて鍼灸の施術のスケジュールをこの日に合わせて帰ってきた。私が参加しとった30年程前は制度が変わる前の成人の日、毎年1月15日。正方形に近い深浦公民館の道場に無理矢理作った長細い試合場が2つ。みんなでぎゅうぎゅうになりながら、かけ声と歓声が飛び交って密度が濃い分熱気も倍になって押し寄せた。お昼には深浦剣道会の父兄の方々がカレーやら豚汁を出してくれて、それをみんなで食べるっていうアットホームさ。なのに個人戦の上位2名は年齢や性別に関係なく一緒くたにされ、トーナメント戦で本当の1位を決めてしまうという過酷なイベント付き!個人戦で優勝しても手放しで喜べんっていう、なんでもアリの自由極まりない、ザ・昭和スタイル!!!笑

それだけにこの頃を知る先輩方とはお酒の席で深浦大会の懐かしい話で盛り上がる。そして、私が初めてメダルをとったのも、初めて優秀選手に選ばれたのもこの大会やった。それをきっかけに剣道熱に火がともったんよね。あぁ、本当に懐かしい。こんなにインパクトのある大会がなくなるのは寂しい。この頃を知る人たちを集めて大人の剣道祭を企画したらいいのになぁ、って、、言うは易しと怒られそうや。笑　　（テノヒラkiku）

あいなん逸品図鑑 その⑲

逸品図鑑「さくらひめ」

愛媛CATV動画

門田園芸　　門田　淳（じゅん）さん(小山)

県が11年かけて開発したデルフィニウムの新品種さくらひめを栽培している門田淳（じゅん）さん。2年前に生産を開始し、産直市などで見かけるようになった花です。「きれいな花やね、良い花と言ってもらえることがうれしい」と話し、これがやりがいにつながっていると笑顔を見せます。

出荷は12月中旬から5月中旬で、5,000から6,000本ほどの花を地元の産直市や宇和島の市場、今年の１月からは大阪方面にも出荷しています。栽培に関する苦労は多く、寒さに弱い品種のため、「冬の温度管理には気を使う」と言い、ビニールハウス内が一定温度以下にならないよう暖房器具を設置して対応しています。

今後の展望については、「生産量を増やし、県内だけでなく県外にも販路を広げ、多くの人に花を楽しんでほしい」と意気込みました。

▲さくらひめを手にする門田淳さん。今年は良い花ができたと自信を見せます。

▲収穫の際は一本一本丁寧に摘み取り、花を傷つけないようにしています。